



第 55 号  
2011 年 5 月 15 日  
LET 九州・沖縄支部事務局発行  
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1-1  
北九州市立大学 長加奈子研究室内  
TEL 093-695-3249  
E-mail: secretariat@jlet-ko.org  
編集: 田上優子・柿元悦子・事務局

## 第 41 回 LET 九州・沖縄支部研究大会へお越し下さい！



大会実行委員長

田口 純（筑紫女学園大学）

昨年 6 月にハウステンボスで開かれた第 40 回記念大会からはや 1 年、第 41 回 LET 九州・沖縄支部研究大会が福岡県太宰府市の筑紫女学園大学で 6 月 4 日（土）に開催されます。今回の大会テーマは「こうすればできる！小学校外国語活動」です。今年度から始まった小学校の「外国語活動」は、単に小学校での取り組みに止まらず、中等教育である中学校や高等学校へもその関わりは深くなり、さらに高等教育の大学等での英語教育にも今後その影響が大きくなっていくことでしょう。これまでも小学校では「総合的な学習の時間」等で英語教育や国際理解教育が行われてきておりますが、学校間格差もあり、教科としての「英語」は中学校から開始されておりました。準備期間があったとはいえ、今年度から本格導入された「外国語活動」を現場でどのように活かせばよいのか、日々ご健闘されている方も少なくはないのではないのでしょうか。今回の大会では、現場の先生方のヒントになるように、ワークショップや基調講演、シンポジウムも具体的なものを計画してお

ります。午前中のワークショップは 2 つ用意し、愛知教育大学の高橋美由紀先生と熊本大学教育学部附属小学校の前田陽子先生に、それぞれ「英語ノート」や ICT を活用した実践的な活動事例を展開していただく予定です。午後からの基調講演では松山大学の金森強先生に「これで大丈夫！小学校『外国語活動』—より良い実施のための留意点」と題して、先生が研究・実践されている「外国語活動」についてご講演いただきます。また、シンポジウムでは高橋先生にコーディネーターをお願いして、小学校や中学校の現場で先進的に「外国語活動」に取り組まれている先生方をパネリストにお迎えして、大会テーマに沿った、具体的実践例やご苦労されていることなどをご議論いただく予定です。もちろん、LET 本来の幅広い各分野の研究発表も予定しております。

夕方からは情報交換会（懇親会）を設け、講師の先生方と会員の皆さま、また当日参加の現場の先生方とで小学校「外国語活動」について、さらに多くの情報交換を行っていただければと思っております。LET として関わること、LET ならではの小学校「外国

語活動」への取り組みを今後行っていくためにも、今大会はそのきっかけ作りになればと願っております。

このように盛りだくさんの大会を成功させるため、ぜひ午前中のワークショップからご参加いただき、緑溢れるキャンパスを大いに熱気で盛り上げていただけるようお願いしております。一つご注意を。大学内の食

堂は当日休業です。また、キャンパス近辺にも食事が出るところはございません。

(太宰府天満宮参道まで行くとございますが。) お弁当を事前予約していただければと思います。交通が少し不便ではございますが、多くの皆さまがお越しになりますよう、微力ながら現在準備を行っております。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

## 筑紫女学園大学・短期大学部での全学的な英語教育の取り組み

松崎 徹

(筑紫女学園大学)



筑紫女学園大学では、文学部（英語学科および英語メディア学科を除く）・人間科学部共通教養科目の外国語の選択科目として、1年次に「Basic English」、「Basic Oral English」、「検定英語」を、2年次に「英会話」、「検定英語」、「旅行英語」、「メディア英語」を、3年次に「英会話」をそれぞれ前後期の半期完結で開講しています。また短期大学部でも、1年次に「Basic English」、「Basic Oral English」、2年次に「検定英語」を教養科目中のコミュニケーション・スキル科目のひとつとして開講しています。

それぞれの科目の内容を概説しますと、1年次の Basic 系英語では基礎的な文法力の定着および簡単な日常会話能力の習得を目指し、1クラス 20～30 名前後の少人数クラス編成で授業を展開しています。また、1～2年次にわたり開講される「検定英語」ではともに演習形式の授業で、1年次では英検準2級および2級の合格を目指し、2年次では Listening および Reading 対策を

主眼に置き、TOEIC でのスコア向上を目指しています。さらに、2年次に開講される「旅行英語」と「メディア英語」は、前者では DVD 教材を用いて海外旅行を疑似体験しながら旅行に必要な表現等を学び、後者では同じく DVD 教材を用いて英語圏で放送される本場のニュースを視聴し、リスニング力の向上を目指すと同時にニュースの背景となっている文化的・社会的事情の理解を深めます。最後に、2～3年次にわたって開講される「英会話」では、1年次の「Basic Oral English」を土台として、日常会話程度以上の英会話能力を身につけることを目的として授業を展開しています。以上のカリキュラム編成の根幹にあるのは、学生の英語力を基礎から再構築していくリメディアル教育の視点、それからバランスの取れた 4 技能 (Reading, Writing, Listening, Speaking) を向上させることにあります。なお、本学の文学部には英語学科と英語メディア学科の 2 つの英語系学科があり、

そのうち英語学科では1～3年次まで Placement Test に基づいて選抜した20名前後の少人数クラス（通称 S クラス）を設けています。この S クラスでは上級レベルの授業を英語で実施することにより、コミュニケーション・スキルを主眼とした受講生の更なる英語力向上を目指しています。また今年度より Core English および Core Oral English という科目を1年生対象に新

たに設けました。この科目は、S クラスに所属しない学生のなかでも、「英語学科に在籍して英語は好きだけど、英語力そのものにはまだ自信がない」という声に代表される学生の文法力と英会話能力を基礎から再学習する、いわばリメディアル的な教育を目的としています。

## 2010 年度第 3 回 LET 支部長連絡会報告

LET 九州・沖縄支部長

島谷 浩（熊本大学）

2010 年度第 3 回 LET 支部長連絡会は、2010 年 12 月 26 日に大阪ガーデンパレス会議室において開催された。この会議は、第 1 回支部長連絡会（7 月 4 日、於：関西学院 KG ハブスクエア会議室）と第 2 回支部長連絡会（8 月 3 日、於：横浜市立横浜サイエンス・フロンティア高校）に続くもので、第 3 回支部長連絡会の出席者は、＜関東支部＞森田支部長、小原事務局長、＜中部支部＞尾関支部長、小栗事務局長、＜関西支部＞神崎支部長、菅井事務局長、＜九州・沖縄支部＞島谷、＜本部＞竹内会長、小山事務局長、名部井本部幹事、住本部幹事、水本本部幹事、吉成本部役員（ID・ネットワーク担当）の 13 名であった。会議での主な審議事項・決定内容は次の通りである。

### 1. 学会業務の名一部外部委託について

住本部幹事（ID システム改善実施チーム委員長）より、総会で承認された学会業務の一部外部委託に向けての準備状況の報告があった。11 月初旬の ID システム改善実施チームによる入札により、委託業者を「あゆみコーポレーション」に決定したことが報告され、委託業務内容の詳細について説明があった。外部委託実施にあたっての本部と支部の負担額案が決まり、理事会のネット稟議にかけられることが決まった。

### 2. 会員資格、及び会費滞納者への対応について

現行の学会会則第 11 条に則り、支部間統一のルールを設け、運用することが確認された。

- ・滞納は最大 2 年間、2 年目の最後（3 月末）まで支払いがなければ（各支部運営委員会の承認を得て）除名とする。その場合、3 年目の 4 月の請求は送らない。

- ・送付物は、会費滞納があっても、送付を続けるが、除名時点で発送を取りやめる。

- ・除名者が再入会を希望する場合、希望のあった年度直前の 2 年間の滞納会費を支払った場合のみ認める。

- ・全国大会の発表については、発表申込年度、発表年度の 2 年度に渡り（共同発表者を含めて）会費を納入していることをルールとする、機関誌については、投稿時に（共著者を含めて）会費を納入していることをルールとすることが確認された。また支部大会の発表については、各支部での弾力的な運用を認めることが確認された。

### 3. 2011 年度全国大会（中部支部担当）について

尾関中部支部長から、2011 年度全国大会（第 51 回大会）について概略（プログラムと予算）の報告があった。大会テーマは「外

国語教育での自律性と継続性」とし、(1) 申し込み時の概要の web 掲載、(2) 研究発表司会は、発表者間で実施、(3) 報告はサイト上のフォームより投稿、(4) 大会でのアンケートの実施、の 4 点が提案され、承認された。ただし、(2)と(4)については試行実施とする。また、これまでタイトルの不統一があった大会要項集は、『外国語教育メディア学会 (LET) 第〇〇回 (20〇〇年度) 全国研究大会発表要項』で統一することが確認された。

#### 4. 2012 年度全国大会 (関西支部担当) について

菅井関西支部事務局長から、2012 年度全国大会の会場は甲南大学 (神戸)、大会事務局長は山本勝巳先生 (流通科学大学)、会場校責任者は伊庭緑先生 (甲南大学) が決定していることが報告された。日程については、全国英語教育学会の開催日として決定している 1 週目の週末をさけ、その翌週とするが、詳細については、各支部の議論を 1 月末までに本部事務局まで連絡することが確認された。2013 年度全国大会の開催場所、日程等については、全国英語教育学会との関係上、2011 年夏の理事会で決定することになり、開催支部の関東支部で検討することになった。

#### 5. 学会機関誌について

水本本部幹事から、機関誌関連についての報告があった。編集委員会で審議事項となっている今後の編集委員会のあり方 (査読委員、編集委員、編集長、事務局の位置づけ) や、査読者の選定方法などについて

の各支部の意向を 3 月末までに報告することになった。

#### 6. 50 周年記念誌の寄贈について

小山本部事務局長より、50 周年記念誌が関連学会と大学図書館など 61 カ所へ寄贈されたことが報告された。引き続き、寄贈の希望がある場合は、送付先を本部事務局まで知らせてほしい旨の依頼があった。

#### 会議後の対応について

学会業務の一部外部委託については、2011 年 2 月のネット稟議による理事会において 2011 年度からの実施と支部からの負担額は会員一人あたり 500 円とすることが承認された。その他の継続審議事項において支部からの意見が求められている 1) 今後の全国大会開催時期と 2) 学会機関誌の編集委員会のあり方については、支部運営委員会において審議し、回答を本部に送付している。

50 周年記念誌の寄贈については、九州・沖縄支部が追加寄贈先を運営委員会で選定し本部へ報告した。その後 3 月末に本部事務局より、本支部からの希望送付先に加え、前回 61 か所の寄贈先に含まれなかった現 LET 役員の勤務校図書館と、国立大学のすべて、そして公立大学の一部の図書館 130 か所に寄贈済みと報告があった。合計で 191 か所に寄贈されたことになる。なお、50 周年記念誌の PDF 版を 2011 年度 4 月より本部ホームページにおいて一般公開することが 3 月のネット稟議による理事会において承認され、すでに閲覧可能となっている。

### 事務局からのお知らせ

【新会員】 2010 年 11 月 1 日以降 (50 音順)

<正会員>

Crescini Anne (北九州市立大学)  
渡邊正隆 (専修大学玉名高等学校)

スチュワート美佐 (福岡市立長丘小学校)

<学生会員>

Stewart William (福岡大学)

冬野美晴 (西南学院大学大学院)

### 【第41回支部大会】

第41回支部大会が以下の日程で開催されます。

日時：2011年6月4日(土) 9:30~18:10

場所：筑紫女学園大学 1号館

大会テーマ：「こうすればできる！小学校外国語活動」

<講演>

講演者：金森 強 (松山大学)

題目：『これで大丈夫！小学校「外国語活動」-より良い実施のための留意点』

<ワークショップ>

『ICT活用で、頭が動く、心が動く外国語活動を』前田陽子 (熊本大学教育学部附属小学校)

『児童の心を育む外国語活動とは？-英語ノート+アルファ』高橋美由紀 (愛知教育大学)

<シンポジウム>

『こうすればできる！小学校外国語活動』

コーディネーター：高橋美由紀 (愛知教育大学)

コメンテーター：金森 強 (松山大学)

パネリスト：池浦真理 (元福岡市立小学校教諭・英語で楽しむ紙芝居研究会代表)

橋口公一 (福岡教育事務所教育指導室・主任指導主事)

前田陽子 (熊本大学教育学部附属小学校)

\*プログラムは支部ホームページ <http://www.j-let-ko.org/>よりダウンロードください。

### 【2011年度春季学術講演会】

以下の日程で2011年度春季学術講演会が開催されます。

日時：2011年7月2日(土) 15:00~17:00

場所：西南学院大学2号館8階 大会議室

講演者：Michael Byram (Professor Emeritus, University of Durham)

演題：The Common (European) Framework of Reference—teaching foreign languages, plurilingualism and intercultural competence

参加費：無料

発表概要：

The CEFR, published ten years ago, has been influential not only in Europe but also in East Asia and the Americas. In this lecture I will explain the reasons for its success, in part by referring to a survey of its use in countries within and beyond Europe, including Japan (Byram and Parmenter, in press).

The title of the CEFR as a document of ‘reference’ within Europe has to be understood in the context of the mobility of the working population, the ‘guest workers’ or migrants of the 1960s and later. The CEFR was to create a common ‘base for talking about language learning, teaching and assessment which would be transparent, comprehensive and coherent. It was a document which would support the policies of the

Council of Europe (currently consisting of 47 states) which had appeared in 'recommendations'. One question I will discuss is whether the CEFR is in itself a policy document or has been used as such.

The reasons for the success of the CEFR will be the main focus of my lecture, and I will draw on a collection of articles from Europe and beyond, including Japan (Byram and Parmenter, in press) in the analysis. I will show that one reason for success has been a consequence of a reduced interpretation and a focus on assessment. This overlooks the discussion of methods and purposes, and ignores the concepts of intercultural competence and mediation. This will also lead me to a critique of these two concepts as presented in the CEFR and suggestions for further development.

In conclusion I will explain the current project of the Council of Europe "Plurilingual and intercultural education", the place of the CEFR in this project, and how this project should remedy some of the limitations of the CEFR.

#### 講演者略歴：

Michael Byram is Professor Emeritus of Education at Durham University, England. He studied French, German and Danish at King's College Cambridge, and wrote a Ph.D. on Danish literature. He then taught French and German at secondary school level and in adult education in an English comprehensive school. Since being appointed to a post in teacher education at Durham in 1980, he has carried out research into the education of linguistic minorities, foreign language education and student residence abroad. His books include *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence* (1997) and he is the editor of the *Routledge Encyclopedia of Language Teaching and Learning*. He is also an Adviser to the Council of Europe Language Policy Division.

#### 【第 51 回全国大会】

第 51 回 LET 全国大会が以下の日程で開催されます。

日時：2011 年 8 月 6 日（土）から 8 日（月）

会場：名古屋学院大学白鳥キャンパス

大会テーマ：「外国語教育における自律性と継続性」

詳細につきましては以下のリンクより大会ホームページをご覧ください。

[大会ホームページはこちら](#)

#### 【会費納入のお願い】

LET 九州・沖縄支部の 2011 年度会費振込のお願いが 5 月中にお手元に届く予定です。個人会員・団体会員は 6000 円、学生会員は 3000 円のお振り込みをお願いいたします。また、2010 年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力をお願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

**【LET ホームページ】**

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部> <http://www.j-let.org/>

**【LET 九州・沖縄支部事務局】**

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-1

北九州市立大学 長 加奈子 研究室内